

龍ヶ崎市_令和7年度「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」推進支援業務

第3回教育・学習分科会

時間： 2026年2月16日（月）13：30～15：00

場所： 龍ヶ崎市庁舎附属棟2階 第1・2会議室

事務局：スポーツ推進課、合同会社デロイトトーマツ（ファシリテーター）

<分科会参加者>

- 健康スポーツ部次長
- 流通経済大学
- たつのこまちづくりパートナーズ（オンライン）

議論事項

- AKIYO's DREAM with RYUGASAKI の振り返り
 - 2/7,8 にて AKIYO's DREAM with RYUGASAKI を開催し、延べ 1,500 名程度が来場した。
 - ◇ 参加者）スポーツの普及において、こういったイベントを草の根的に継続していくことが重要だと考えている。
- 学校連携の実施計画に関する協議
 - 教員の巻き込みについて
 - ◇ 参加者）学校機関での体験会開催に先立ち、教員を対象に講習会を実施することも考えられる。生徒への指導マニュアルを作ったとしても、読むだけでは指導できないケースが想定される。また、講習会を通じ、教員側に本取組への理解を深めてもらうことも期待できる。
 - ◇ 事務局）次年度の体験会では外部の指導員を招く想定だが、国交付金の採択期間後の次々年度以降は教員による指導も考えられるため、検討していきたい。他自治体事例として、例えば港区では指導マニュアルのみならず、動画での解説や講習会の開催など手厚く準備をしていた。
 - ◇ 参加者）龍ヶ崎市はスポーツ協会主導で各種講習会を実施している。指導員確保に向けて、まずは他のスポーツに関わる教員に参加してもらうことが重要ではないか。
 - ◇ 事務局）指導員として、岳連へ依頼することなどは考えられる。その他、地域おこし協力隊を採用し、指導員として育成していくなどが考えられる。
 - ◇ 参加者）安全上のイメージから、クライミングは始める上でのハードルが高いと考えている。指導者がいるとなれば体験のハードルは下がるため、まずは教員側にスポーツライミングというスポーツを理解してもらうとよいのではないか。ターゲットは生徒であるが、教育という広い視点で考える場合、大人の理解を得ることは重要になる。
 - ◇ 参加者）スポーツライミングを経験している教員は少数であるため、生徒がどう楽しめそうかを考える上でも教員側へのアプローチは重要だと思った。

- たつのごアリーナの活用について
 - ◇ 事務局) たつのごアリーナへ訪問する形での学校連携を希望する学校も一定数あると考えられる。施設を管理・運営している中でコメントがあれば伺いたい。
 - ◇ 参加者) 2/10 にて市内小学校の生徒がアリーナへ体験に来た際は、教員も含め盛り上がりを見せた。定期的に指導していく場合、指導側に協議の知識や経験が必要となり、教員には難しい一方、アリーナであれば専門性のあるコーチが指導員となる。受け皿として活用してもらうためにも、クライミングを体験可能な施設として認知を高めていく必要があると感じた。
- 学校連携以外のアクションに関する協議
 - プロモーションについて
 - ◇ 参加者) プロモーションについて、龍ヶ崎市がクライミングのまちであるとより周知していくべきだと考えている。例えば通勤中にクライミングジムの広告が目に入るなど、市内名物のコロッケのような分かりやすいプロモーションがあるとよい。普及に向けては、体験のハードルをいかに下げるかに尽きる。
 - ◇ 事務局) 費用対効果を注視しつつ、龍ヶ崎市駅等への広告は引き続き検討していきたい。

以上